

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「鍛える」「見守る」「高める」をキーワードに、「知・徳・体」のバランスの取れた人材、将来において社会で自立できる人材、社会に貢献できる人材を育成するというコンセプトのもと、次の4点を本校のめざす学校像とする。

- 1 すべての生徒の学力を3年間でより一層向上させ、進路希望を実現する学校
- 2 生徒一人ひとりが充実した学校生活を送り、「行って良かった」と思える学校
- 3 保護者・地域等と連携し、共に生徒の主体的成長を積極的にサポートする学校
- 4 学校教育目標の達成に向け、教職員が一丸となって日々の教育活動に組織的に取り組む学校

※「鍛える」：生徒の頭（学力）、体（体力）、心（精神）を鍛える。

※「見守る」：生徒の自主的、自発的な活動を見守る。

※「高める」：感性、人間性、社会性、人権感覚、国際感覚を高める。

2 中期的目標

1 学力・進学保障—生徒のモチベーションを向上させ、学力の向上と進路目標の実現を図る

(1) 教志コース（教員養成系コース）を定着させる。

- ア 1年生を対象にしたコースのガイダンスの充実を図り、生徒一人ひとりが将来の進路を見据えてコースを正しく選択できるようにきめ細かい指導を確立する。
- イ 2年生の設置科目「教志入門」の内容を充実するとともに、効果的な運営方法を確立する。
- ウ コース生が講義記録と報告、実地実習の記録と報告、レポート課題の作成等を主体的に行うことにより、進学意欲やICT活用能力の向上を図るとともに、学習内容や学習評価の合理化、効率化、適正化を図る。

※ R4年度入学生のうち、コース選択生徒の卒業時の満足度を85%以上にする。(H29: 88.5%、H30: 79%、R1: 79%)

※ 教志コース生の進路実現の一環として、大教大特別推薦枠での入学をめざす。

(2) 学力向上・進路目標実現のための3年計画（「北高スタンダード」）の活用を図る。

- ア ICTを積極的に活用した授業改善を推し進め、「見てわかる授業」「板書時間の削減」「机間巡視による個別指導の増加」「対話的授業」に取り組むことで授業の効率化を図り思考力・表現力の伸長を図る。
- イ 授業の相互見学、教科ごとの研究授業を実施し、教科教育力の向上を図る。
- ウ 積極的に上位校を狙う生徒や遅進生徒に対する指導の現状を集約し、対象生徒の状況（課題）に応じた支援をコーディネートする。
- エ 各種検定（漢検・数検・英検等）を推進し、基礎学力の伸長を図る。
- オ 令和元年度学校経営推進費によりWindowsタブレットの購入及び普通教室（28台）、特別教室、体育館、職員室（全32か所）に無線LAN（Wi-Fi）のアクセスポイントを設置し授業のICT化を深め、家庭学習時間を増加させ生徒の学力のさらなる向上につなげる。

※ 生徒向け学校教育自己診断における学力向上・進路目標実現に向けての生徒の努力度を「よくあてはまる」、「あてはまる」で令和4年度は80%以上とする。(H29: 78.4%、H30: 78.8%)

※ 生徒向け学校教育自己診断における平日の※家庭学習時間をR4年度は1年生60分以上、2年生70分以上、3年生180分以上とする。

(H29: 55分、51分、181分、H30: 52分、56分、170分、R1: 54分、56分、171分)

★家庭学習時間とは授業以外の学習時間を示す

※ 教員向け学校教育自己診断におけるICT機器の活用率の向上をめざし令和4年度以降は75%以上を維持する。

(H29: 59%、H30: 61%、R1: 64%)※教員質問3

※ 外部学力調査における生徒（3年生）のGTZ平均値（国数英）をR4年度はB2ランクに向上する。

※ 進学実績について、生徒の第一希望を叶えることを目標として、大学進学希望者について、R4年度は3年生1学期段階での進路希望先を達成できた生徒の割合を80%以上にする（3年生1学期段階での進路希望先達成率、関関同立、国公立大学等への合格率、産近工龍（工は大工大）等の大学への合格率）。(H29: 78.4%、15.8%、27.4%、H30: 71.4%、12.8%、9.3%、R1: 73.7%、18.1%、14.6%)

2 学校生活—規範意識の高揚を図り、安全・安心な学校生活を送ることのできる学校作り

- (1) 規範意識の高揚を図る—遅刻、服装、頭髪、装飾品、自転車乗車マナー等。
- (2) 安全・安心で意欲的な学校生活を推進する—あいさつ指導、清掃の徹底、環境（学習・生活）整備、高いレベルでの文武両道（学校行事・部活動の推進）、障がい者差別の解消、他者を尊重する心を育て、いじめを起こさせない環境作り
- (3) 学校行事等の取り組みで生徒の主体化を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における高校生活における満足度を「よくあてはまる」、「あてはまる」でR4年度は90%以上とする(令和元年度は84%)

3 学校運営—プロとしての教員集団を組織化し、地域の教育資源を最大限に生かしながら、機動力のある学校運営を行う。

- (1) 実務提要管理—電子データ化された実務提要（学校内規）の管理及び見直し体制の構築。
- (2) ICTの積極的活用—校務運営システム（教育庁）と校内LANを最大限活用して生徒情報総合システムを構築し、校務運営の効率化を図る。
- (3) 新任・若手教員に地元の小中学校などでの研修や授業参観を通して、力量の向上を図る。
- (4) 教志コースの充実、新教育課程に関する研修、教科教育力の向上などを視野に入れた施設設備・教材教具の改善と充実を図る。
- (5) 地域連携の取組の定着・推進—地域行事や八中校区地域教育協議会への参画、北高アカデメイアの実施等を通して、一層地域からの信頼を高める。

※ それぞれの取組を継続するとともに、各取組の内容の充実を図る。

※ 北高アカデメイアの参加者数をR4年度は※180人以上（H29: 173人、H30: 180人 R1: 205人）満足度を95%以上とする。

★対象児童が減少しているため目標値を下げる

4 広報—常に情報発信に努め、保護者・地域から信頼された、開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 広報活動の強化—学校説明会・ホームページ・メールマガジン・北高NOW等のブログ化、校長ブログを通して、本校の取組の周知を図る。
- (2) アドミッションポリシーの周知

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学力・進学保障】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業は定着したと言える。今後は生徒が1台保持する端末の活用、オンライン授業の充実を図ることが課題である。 <p>【学校生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車運転マナー意識は向上しているが、生徒の事故防止も含め継続的な課題である。 ・肯定的回答割合が上昇。コロナ禍の制約の中、それぞれ前向きに努力した結果と言える。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実務提要（内規集）の利用率が著しく低下している。改定に向けてのPTを設置した。 	<p>第1回(令和2年9月4日開催(書面))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用授業実施教員95%は素晴らしいが、実際の活用方法も分析する必要がある。 ・コロナ禍での行事実施方法の検討や学校自己診断の生活満足度肯定的回答に注視すべき。 <p>第2回(令和2年12月2日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業外学習時間のうち、塾での学習時間を把握すべき。 ・ICT機器の導入による「授業内容の効率化」と「データの共有化」の2項目はアンケートの質問を分けるべき。 <p>第3回(令和3年1月25日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断の自転車ルールについて、次年度「夜間無灯火」「安全速度の超過」等を違反例として追記する。

府立高槻北高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力・進学保障	(1) 教志コースの充実 (2) 生徒の学力向上と進路目標の実現	(1) ア ①講師の方との入念な打ち合わせ、② 実地実習の事前指導の充実、③連携大学へのキャンパス訪問 (2) ア ICT を活用した授業の充実を図り、学力とりわけ思考力、表現力の向上につなげる。その為の校内研修を実施する。 イ 授業の相互見学制度・教科ごとに ICT を活用した研究授業を行い、教科教育力の向上を図る。 ウ 進学校としての意識を醸成するとともに北高スタンダードを活用する。特に学力向上・進路目標実現に向けた取組（下記①～⑦等）について、効果的な実践を図る（特に懇談期間を4日間設定し充実を図る）。 ① 定期考査・学力生活実態調査・模試 ② 各種検定（漢検・数検・英検等）の推進 ③ A・B 講座・補習・講習の充実 ④ 懇談（生徒・保護者・三者・クラス・学年） ⑤ 科目・コース選択説明会・進路別説明会・大学見学 ⑥ 担任会・拡大学年會・教育相談委員会 ⑦ 追認関係・判定会議 エ 読書活動推進のため、新入生オリエンテーション時に図書館利用方法の周知。映像化作品の導入。図書委員による「図書だより」の発行。PTA からの図書充実費の援助。	(1) ア 教志コース生としての取組の満足度 80% 以上。(R1:79%) (2) ア ICT を活用した授業（実施教員の割合）90%以上。(R1:95%) イ 教科ごと研究公開授業を1回以上、生徒の授業満足度 80% 以上。(R1:84%) ウ 活用度 * 生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間を1年生 55 分以上、2年生 60 分以上、3年生 180 分以上とする。(R1:1年 54 分、2年 56 分、3年 171 分) * 進学実績について、4年制大学進学希望者について、3年生1 学期段階での進路希望先を達成できた生徒の割合を 75%以上にする。(R1:73.7%) (進学実績として関関同立、国公立大学等への大学合格率 18% (R1:18.1%)、産近工龍（工は大工大）等の大学合格率 15% (R1:14.6%) を維持する。 *各種検定への延べ参加率を維持する。(R1:29%) エ 図書館利用者数（書籍貸出数）は R1 以上とする。(R1:書籍貸出数 721 冊、)	(1) ア 満足度 93% (◎) 2年「教志入門」の内容充実による (2) ア 97% (◎) 経営推進費による機器、環境の充実 イ 研究授業 全教科 1 回 (○) 授業満足度 87%(◎) ICT 機器の活用を含む授業進行の工夫及び個々の教員の授業力の向上 ウ 平日の家庭学習時間 (○) 1年生 59 分、2年生 62 分 3年生 174 分 希望進路 79.4%(○) 関関同立・国公立 26.9%(◎) 産近工龍 22.1%(◎) 授業・講習・家庭学習の充実による 各種検定 31%(○) エ 568 冊 (△) 4.5 月臨時休業時の貸出数 0 による大幅な減
2 学校生活	(1) 規範意識の高揚 (2) 安全・安心で意欲的な学校生活の推進	(1) ア 日常の指導はもちろん、身だしなみマナー向上週間を導入し、遅刻した生徒に対する早朝登校指導の徹底や、常習者への丁寧で粘り強い個別指導。頭髪、装飾品など違反生徒への随時指導を全教員で図る。 イ 登下校時の安全指導の継続、警察及び安全協会と連携し安全講習会の開催。 ウ 携帯使用のマナー指導及び啓発活動の継続。 エ 生徒が部活動を主体に取り組む。 オ 生徒が学校行事を主体的に取り組む。 (2) ア 清掃活動の徹底及び安全点検を定期的に行うと共に施設・設備の改善を図る。 イ 生徒が率先して挨拶ができるよう、授業の始業時終業時のみならず、あらゆる機会において教職員が率先垂範して積極的に挨拶を励行する。 ウ 教職員の救急講習会への全員参加 エ 献血活動の啓発（文化祭時のビデオ教材の選定） オ 部活の加入率及び満足度を高める休養日の設定など運営方法に工夫が必要 カ 学校行事を生徒主体で取り組ませる	(1) ア 遅刻者数の1日平均を (R1:7.5 回) 以下にする。 イ 自転車に関する運転マナー意識の向上 90%以上 (R1:92%) 自転車事故による保健室利用数を昨年度以下にする。(R1:59 件) ウ 指導件数を前年度以下にする。(R1:71 件) エ 部活動を主体的に取り組めるように工夫されていると思う生徒 85% 以上。(R1:83.3%) オ 学校行事を主体的に取り組めるように工夫されていると思う生徒 85% 以上。(R1:83.3%) (2) ア 生徒向け学校教育自己診断における学習環境の満足度 75%以上 (R1:75%)。 *施設・設備の改善認識 75%以上。(R1:74%) ※積極的に清掃活動や環境整備に取り組んだ 75%以上 イ 生徒向け学校教育自己診断における挨拶をしている生徒 80%以上 (R1:77%)。 ウ 職員救急講習参加率 90%以上 (R1:94%) エ 生徒の献血意義の認識 90% 以上。(R1:93%) オ 部活動加入率及び、満足度共に 80%以上 (昨年度加入率 80%、満足度 77%) カ 学校行事を主体的に取り組んだ 80%以上	(1) ア 5.8 回 (◎) 丁寧な遅刻者指導の効果による イ 95% (◎) 毎朝の登校指導の効果による 保健室利用 54 件 (○) ウ 53 件 (◎) 根気強く丁寧な指導の効果による エ 88% (○) オ 94% (◎) 制約の中、生徒の意見・考えを反映できる形で内容提示した結果による (2) ア 86% (◎) } 感染予防対策の *80% (◎) } 徹底と生徒個々の ※86% (◎) } 意識向上による イ 82% (○) ウ 98% (◎) リモート研修効果 エ 88% (○) 文化祭で例年実施の映画上映ができなかったが、減少は小さかった オ 82% (○)、79% (○) カ 91% (◎) (1)オと同様
3 学校運営	(1) 学校力の向上 (2) 教師力の向上 (3) 地域連携	(1) ア 実務提要の効果的な利用 イ 適切な改善・引き継ぎ方法の策定 ウ 校務処理システムを活用し校務運営の効率化を図る エ ICT 機器の導入に伴う、授業内容の効率化データの共有化を積極的に推進する。 オ 一斉退庁日及び部活動方針の周知。分掌ごとのワークの見直しを行い、教員の勤務時間の削減及び効率化を図る。 カ 生徒に最終下校時間を遵守させ、教員の勤務時間の削減を図る。 (2) ア 若手・新任教員に対する校内研修を充実させる。 イ 支援教育に関する教職員研修を実施する。 (3) ア 地域行事への参画、北高アカデメイアの実施等を通して、より一層地域からの信頼を高める。	(1) ア 教職員の利用割合 R1 以上。(R1:59%) イ 教員の改善認識 80%以上。(R1:84%) ウ 校務処理システムの活用 80% 以上 (R1:90%) エ ICT 機器の活用 R1 以上。(R1:68%) 及び教員と生徒の双方のデータの比較検討 オ 教員一人当たりの月平均時間外勤務時間を R1 以下 (R1:一人月平均 36 時間 40 分) カ 毎日の下校指導の徹底及び一斉退庁日の周知 教職員の一斉退庁日の 19 時以降勤務者を R1 以下 (273 人) (2) ア 新任・若手教員の満足度 R1 以上。(R1:64%) イ 教職員の改善認識 R1 以上 (R1:57%) (3) ア 北高アカデメイア参加者数 200 名及び満足度 95% (R1:参加者数 205 名、満足度 98%)、	(1) ア 43% (△) 実態とのずれが生じてきたため→改定のための PT を設置した イ 83% (○) ウ 87% (○) エ 78% (◎) 経営推進費による機器、環境の充実 オ 34 時間 54 分 (○) カ 410 人 (△) 修学旅行・文化祭・体育祭等の行事内容の変更により業務量が増加した (2) ア 75% (◎) } 校内研修の イ 71% (◎) } 充実による (3) ア コロナ禍で未実施 (一)
4 広報	(1) 広報活動の強化	(1) ア 次の取組を通し、本校の教育内容の周知を図る。 学校説明会 ホームページの更新 メールマガジンの定期的配信 北高 NOW のブログ化 校長通信の定期的更新 イ アドミッションポリシーの周知	(1) ア 学校説明会－7 回以上 (R1:7 回) 参加者満足度 90%以上 (R1:95%) ホームページ 50 更新 (R1:100 回) アクセス数 5 万人以上 (R1:53647 人) メールマガジン 40 以上配信 (R1:42 回) 校長通信 100 回以上更新 (R1:121 回) イ アンケートによる理解度 80%以上。(R1:79%)	(1) ア 説明会 3 回 (○) 回数減もリモートなどの工夫 満足度 96% (○) HP 更新回数 37 回 (○) 回数減もバナー広告掲載開始 アクセス数 96082 回 (○) メルマガ配信 100 回 (○) 校長通信 123 回 (○) イ 79% (○)